



天狗面

アネマ面



獅子頭



ババ面

市・有形民俗文化財

獅子頭及び面

魚津市小川寺（小川寺地区）

指定を受けているのは、小川寺の獅子舞に用いられる獅子頭や天狗面、アネマ面が各1点とババ面2点の計5点である。

獅子頭は箱獅子といわれる角張った形で、歯は比較的大きく、鼻には梵字が刻まれた数少ない室町時代の形式である。天狗面の鼻と額にも千手観音と大威徳明王をあらわす梵字が刻まれていることから、獅子頭と同時代のものと考えられる。ババ面は、江戸時代に実在したと伝えられる十王堂六兵衛と森木三右衛門の似顔絵といわれ、この2人は、小川寺と隣村との山境争いの際に活躍したといわれる。

アネマ面は、江戸時代に実在したといわれる女傑「鬼神のお松」といわれているが、この面は醜女であり、「山の神」の面であろうと考えられている。これらは、いずれも桐を素材としている。

この指定物件は魚津歴史民俗博物館に展示預託してあるため、獅子舞の際は複製品を使用している。